

## 第1期、第2期基本計画を通じ、日本の科学技術の基礎固めが進む。

- **研究水準は着実に向上、世界をリードする研究成果が出現。**

- ◆ 科学技術投資は、成果の結実までに多年度を要するが、公的支援により、我が国独自の研究成果が大きく育ち、新たに数千億円以上の市場を形成しつつあるものもあり。
- ◆ 米国に次ぎ、世界第2位の論文発表数
- ◆ 5年前と比較して、多くの分野で、対米・対EUの研究開発水準が向上

- **産学官連携や大学・研究機関の改革が進展。**

- ◆ 産学共同研究件数及び大学発ベンチャー企業数が増加。
- ◆ 国立大学や国立試験研究機関等の法人化

## 一方で、世界各国は優れた頭脳をどのようにして育てるか、で激しく競い始めた。

- 欧米のみならず、中国、韓国も含めた「知の大競争」が激化。
- 環境と経済の両立や少子高齢化のもたらす課題克服などが急務。